

津島における交通の変化と都市構造の変容

岐阜大学 学生会員 ○鍵谷哲志
 岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. はじめに

近世から明治初期にかけて舟運は主要な交通であった。しかし、明治中期から鉄道が整備されるとともに、その勢いは衰え、昭和期には自動車交通が發展し、舟運による交通はますます衰えていった。時代の要請に従い交通は変遷していき、それとともに都市の構造もその変化に対応する形で移り変わっていく。

今回対象とする津島という町は近世にわたって津島神社の門前町として、また町の中心を流れる天王川の湊町として栄えてきた町である。しかし、天王川に接続する佐屋川は、全国的な事業として位置づけられる木曾三川改修工事の一環として締め切られ、天王川はその交通機能を失う。それを皮切りにして、明治後期から昭和初期にかけて鉄道や道路といったインフラが整備され、津島という町において、交通が変化していく様子が観察される。

町という枠組みを超えた広範囲にわたる事業によって、町の構成に強い影響を与えてしまうということは、起こりえることである。今回は特に交通の変化に着目して、交通の変化がその後の町の変容にどのような影響を与えたのかを明らかにする。

2. 湊町津島の形成

明治以前における津島の町の構造については、既往研究¹⁾が存在し、米之座や車河戸といった湊の整備によって發展していったことがあきらかにされている。1748年に描かれた〈尾張國海西郡津島之圖〉²⁾(図-1)からは米之座と車河戸に接する場所に幹線道路がひかれ、二つの湊の間に町が發展した様子を読み取ることが出来る。また、同図と明治31(1898)年に陸軍陸地測量部によって描かれた地図を見比べると、道路の配置を判断して、その町割りほとんど変わらないことがわかる。

このことから、佐屋川の廃川工事が完了する直前の明治31(1898)年においても、津島の町は、湊を核として發展した町の構造を残していたといえる。

3. 佐屋川の廃川と天王川の孤立

明治33(1900)年に佐屋川は木曾三川改修工事の一環として締め切られる。『沖野忠雄と明治改修』³⁾によると、木曾川改修事業における問題は土砂の堆積であり、これを解消するためには、①上流の土砂を流下

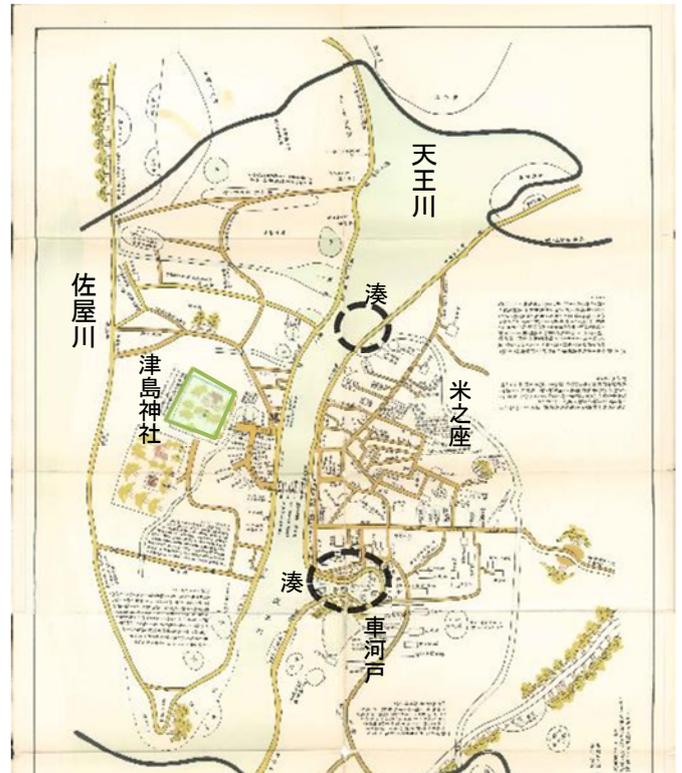


図-1 形成期における湊町津島

させない②下流において土砂を掃流させる、という2点が重要であった。木曾川改修事業においては②の土砂の掃流を達成するために、派川を締め切り本川の掃流力を高めるといった一川改修の方針がとられた。そして、木曾川の派川であった佐屋川は、その改修事業の一環として廃川が決定する。

一方で、流下する先の川を失った天王川は付近の川から孤立し、湊としての機能を失う。湊としての機能を失った天王川であったが、その全てを埋め立てられることはなく、巨大な池沼としてその水面を保持され、津島神社の尾張天王祭りは従前と変わらず天王川で行われた。

4. 尾西鉄道の敷設

佐屋川の廃川と時を同じくして明治33(1900)年に、地元の有志を中心として尾西鉄道が敷設される。この目的は、地元の産業を振興するというものであった。この尾西鉄道は既往の市街地の東側に沿うように敷設された。沿線に繊維業の関連工場が立ち、市街地と線路の間にあった未整理の農地が整理され、沿線に沿った道路とそれに直行するような道路が整備された。

5. 名古屋電気鉄道による名古屋-津島線の敷設

名古屋電気鉄道によって、名古屋-津島線が敷設され、名古屋からの旅客が見込めるようになった。これを契機に交通機能を失い祭事場として管理されてきた天王川を公園となし、津島の町を名勝都市として発展させていこうという機運が高まった。これを受けて、本多静六、田村剛らによって『天王川公園設計案』⁴⁾が提出された。この設計案では、公園本体に対する提案だけでなく、津島駅と津島神社と天王川公園をつなぐ観光道路を作ることも提言されていた。その提案を受け、津島駅と津島神社をつなぐ天王通が建設される(図-2)。この事業により、かつて天王川であり蓮田として利用されていた土地が埋め立てられ、道路の整備と共に新しく劇場やカフェといった娯楽施設が立地していった。

6. 津島耕地整理組合による耕地整理事業

大正10(1921)年地元の大地主40名が会合し、それを始まりとして津島耕地整理組合が組織される。この耕地整理組合の目的は単に農耕上の便を図るだけでなく、時代の要請を受け工業のための基盤を整備するというものであった。⁵⁾その構想は道水路の改善、区画の整理などによる土地改良の結果、農業の収益の増加だけでなく、大小工場をはじめ小学校または一般住宅地帯を生じ、一般農家における余剰能力を工場労働に利用するというものであり、この構想に従って格子状道路や工場立地を見越した広い農地といった工業の基盤となりうる区画が整備された(図-3)。

7. 都市構造の変容

近世に湊が整備され天王川の舟運による湊町として発展した津島であったが、明治33(1900)年に木曾川流域全体の治水を目的とした木曾三川改修工事の一環で佐屋川が締め切られてしまい、津島は湊町としての機能を失う。時を同じくして、町の東側に私設鉄道が敷設され、その沿線には工場が立地し、線路と市街地の間に存在した未整理の農地は線路に対して直角に整理され、津島駅に対する利便性が向上する。

また大正3(1914)年に名古屋-津島線が開通すると、観光地として町を発展させる機運が高まり、天王川公園が整備された。その提案の際、津島神社と津島駅をつなぐ観光道路が提案され、これを受けて天王通りが敷設された。湊を核として発展した津島の町に、天王通りが整備されることによって新たな都市軸が加わり、その後東側の新市街地を発展させる流れになる。

工業の発展という時代の要請に従い、不整形な農地であった町の東側に工場立地を見越した区画が整備された。

今後は、工場や商店の立地の詳細な調査および各事業の目論見に関わる一次資料を収集・分析し、それまでの郊外地における開発に伴う旧市街地の機能的変容と、そこにおける津島町の意志決定者たちの意図を把握する。さらに、名古屋や一宮を含む広域の都市圏において、津島の位置づけと交通状況は時代とともに変化しているはずであり、相互に影響する都市間の関係を含めて津島の都市形成の因果を考察する。

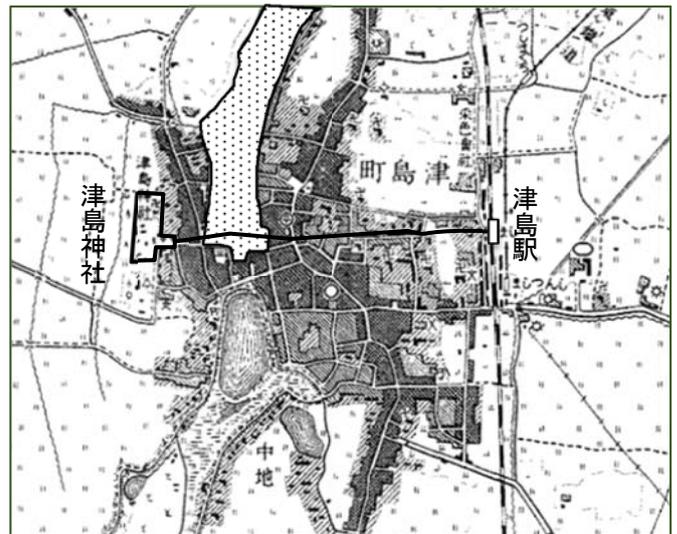


図-2 天王通りの敷設

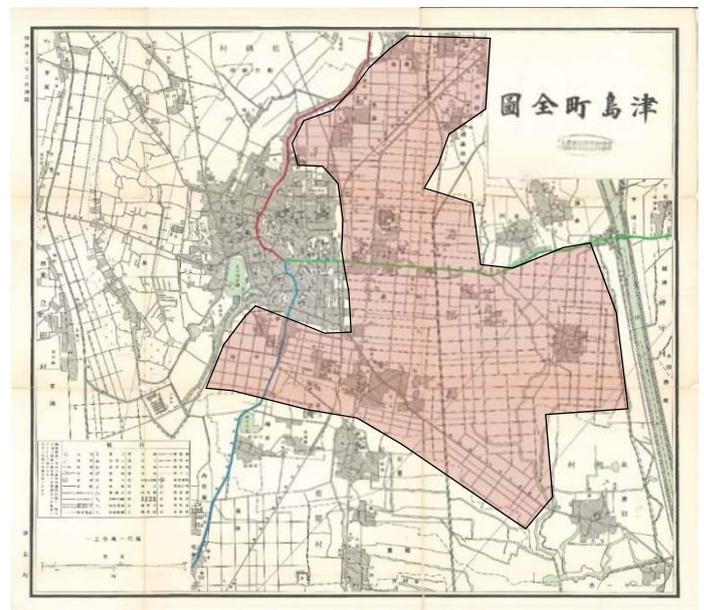


図-3 耕地整理組合による事業範囲

参考文献

- 1) 山村亜希：中世津島の景観とその変遷：愛知県立大学文学部論集。日本文化学科編 53, 1-28, 2005
- 2) 堀田之邑：尾張國海西郡津島之圖：1748
- 3) 土木学会土木図書館委員会沖野忠雄研究資料調査小委員会：沖野忠雄と明治改修：2010
- 4) 津島町：天王川公園設計案：1919
- 5) 津島耕地組合：事業報告：1936